

第46期 大寶館展示



令和5年(2023)4月1日～令和6年(2024)3月28日



♪ 企画展 ♪

中田喜直 生誕100年記念展 ～音楽のまち鶴岡～

なかだ よしなお
中田 喜直



大正12年～平成12年
(1923) (2000)

日本を代表する作曲家で、様々なジャンルの愛される楽曲を多く創作した。代表曲に「めだかの学校」「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」そして、鶴岡の雪景色がモチーフといわれる「雪の降るまちを」などがある。鶴岡が舞台の名曲が生まれるきっかけとなったのは、一人の音楽愛好家との親交であった。その後、鶴岡市民歌の作曲や、昭和61年から始まった鶴岡音楽祭への参加など、鶴岡の音楽文化の向上に貢献した。永年にわたる功績から、平成6年には鶴岡市特別功労賞を受賞した。

音楽のまち鶴岡の振興に貢献した人々

『雪の降るまちを』の誕生と、受け継がれる音楽愛



すがわら きへい
菅原 喜兵衛

明治36年～平成10年
(1903) (1998)

中田喜直氏と鶴岡を結び付け、地域で格調の高い本物の音楽を根付かせる活動に情熱を捧げた。「よい音楽を楽しむ会」などを主催。勲五等双光旭日章 鶴岡市市政功労者



みつ い なお
三井 直

大正2年～平成29年
(1913) (2017)

長年音楽教諭として中学校で教鞭をとりながら、鶴岡土曜会混声合唱団の母体をつくりあげた。合唱指導者とし卓越し、鶴岡の芸術文化の水準を高めた。鶴岡市市政功労者



たいほうかん
大寶館～郷土ゆかりの人物資料館～

大正4年創建、鶴岡市指定有形文化財

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町4-7

TEL/FAX 0235-24-3266

【開館時間】9:00～16:30

【入館料】無料

【休館日】水曜日(祝日の場合は翌日以降の平日)

12月29日～1月3日

第46期 大寶館展示人物

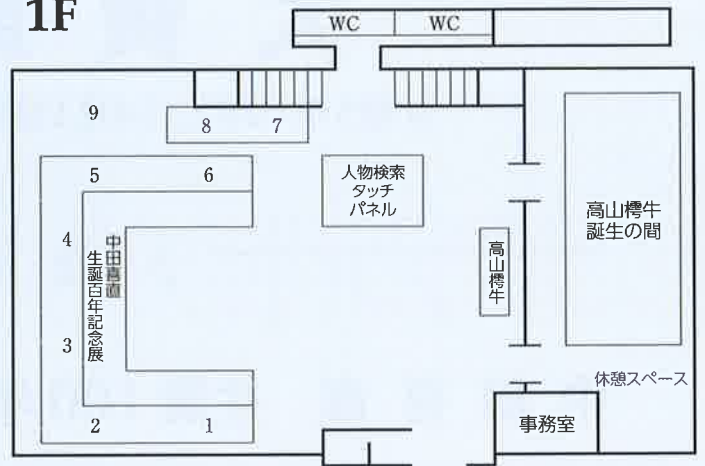
明治以降、各分野で活躍した鶴岡ゆかりの人物資料を展示しています。

<高山樗牛生誕の間>

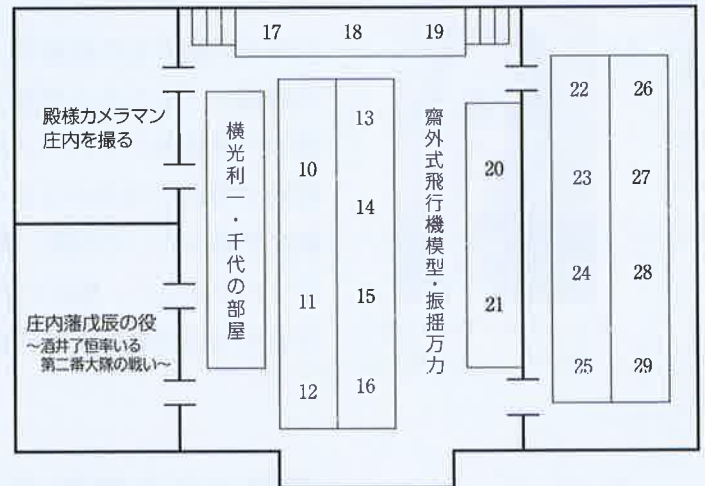
高山樗牛 (たかやまぢょう) 明治4年(1871)~明治35年(1902)
明治の文豪。移築された生家の一部も展示。

- 相良守峯** (さがらもりお) 明治28年(1895)~平成元年(1989)
ドイツ語を専攻する学生の必携書「木村・相良独和辞典」を編集した。
- 茨木のり子** (いばらきのりこ) 大正15年(1926)~平成18年(2006)
夫と実母の故郷である庄内を題材にした詩を発表した詩人。
- 松本十郎** (まつもとじゅうろう) 天保10年(1839)~大正5年(1916)
明治維新後、北海道開拓判官として漁場開拓・原野の開拓に尽力した。
- 石原莞爾** (いしわらかんじ) 明治22年(1889)~昭和24年(1949)
満州国建国を指導。東亞連盟を主導して世界の恒久平和を希求した。
- 本多猪四郎** (ほんだいしろう) 明治44年(1911)~平成5年(1993)
「ゴジラ」など数多くの映画を作り、世界に知られた特撮映画監督。
- 第47代横綱柏戸** (かしわど) 昭和13年(1938)~平成8年(1996)
ライバル大鵬と共に「柏鵬時代」を築き、日本中に夢と感動を与えた名横綱。
- 森敦** (もりあつし) 明治45年(1912)~平成元年(1989)
庄内を舞台にした小説を発表した作家で、妻は庄内人。庄内をこよなく愛した。
- 横光利一** (よこみつりいち) 明治31年(1898)~昭和22年(1947)
川端康成と共に昭和文学の発端を飾る、いわゆる「新感覚派」の中心的な担い手。
- 中田喜直** (なかだよしなお) 大正12年(1923)~平成12年(2000)
「雪の降るまちを」等作曲し、鶴岡と深い縁を持つ日本を代表する作曲家。
- 横光利一と千代** (よこみつりいちとちよ) 「文学の神様」と称された昭和期の日本の代表作家。千代夫人は鶴岡出身。
- 日向豊作** (ひなたとよさく) 明治8年(1875)~昭和17年(1942)
北海漁業など水産業界、また金融業の発展にも尽力。横光夫人・千代の実父。
- 尾形六郎兵衛** (おがたろくろうべえ) 明治34年(1901)~昭和48年(1973)
加茂の旧家尾形家の7代目。底引き漁業やマグロ漁業を行い、さらに海南島で漁場開拓に貢献。
- 酒井了恒** (さかいのりつね) 天保13年(1842)~明治9年(1876)
戊辰戦争で第2番大隊隊長として活躍。明治維新後、清国に渡り直隸経略論をまとめた。
- 酒井調良** (さかいちょうりょう) 弘化5年(1848)~大正15年(1926)
たねなし柿の苗木育成、渋抜き法を研究。庄内一円に庄内柿を広めた。
- 白井久井** (しらいひさい) 嘉永2年(1849)~大正元年(1912)
鶴岡における婦人活動の先駆者。女子教育・幼児教育に尽力。
- 黒崎研堂** (くろさきけんどう) 嘉永5年(1852)~昭和3年(1928)
風格ある書風をもって庄内の書道興隆に尽くし多くの弟子を育てた。
- 田沢稲舟** (たざわいなぶね) 明治7年(1874)~明治29年(1896)
当時、数少ない女流作家の一人として、文芸評論家の議論を沸かした。
- 伊藤鶴代** (いとうつるよ) 明治元年(1874)~昭和8年(1896)
鶴岡家政高等学校の前身である鶴岡裁縫塾を創設。女子教育の振興に貢献した。
- 戸川安章** (とがわあんしょう) 明治39年(1906)~平成18年(2006)
山岳修験道を調査・研究し、出羽三山を山岳信仰の拠点として、国内外に広めた。
- 齋藤外市** (さいとうといち) 慶応元年(1865)~大正15年(1926)
鶴岡の発明王。電動織機の発明は、鶴岡を一躍織物の町へと発展させた。

1F



2F



- 松森胤保** (まつもりたねやす) 文政8年(1825)~明治25年(1892)
博識多彩、まさに百科全書的な才人で貴重な著書約700冊を残した。
- 吉田苞竹** (よしだほうちく) 明治23年(1890)~昭和15年(1940)
大正から昭和にかけて、日本の書道興隆に尽した。日本屈指の書家。
- 吉田菁菁** (よしだせいせい) 明治30年(1897)~昭和56年(1981)
書業普及に尽力し「書壇院」を設立する等、日本の書道界に大きな足跡を残した。
- 松平穆堂** (まつだいらぼくどう) 明治17年(1884)~昭和37年(1962)
庄内における書道教育の大家。中国に渡って書学の研究を積み穆堂流を広めた。
- 佐藤鐵太郎** (さとうてつたろう) 慶応2年(1866)~昭和17年(1942)
日本の将来を思い、島国日本のとるべき道を「海洋国家」「貿易立国」と説いた。
- 遠藤虚籟** (えんどうきょらい) 明治23年(1890)~昭和38年(1963)
日本の綴織工芸界の第一人者で、世界的な巨匠と言われた。
- 齋藤悠輔** (さいとうゆうすけ) 明治25年(1892)~昭和56年(1981)
地検検事、裁判所長等を務め、最高裁判所判事として法曹界で活躍した。
- 五十嵐與七** (いがらしよしち) 明治18年(1885)~昭和42年(1967)
「セピア色の魔術師」と評された日本の肖像写真の第一人者。
- 菅原利鏱** (すがわらとしはる) 明治24年(1891)~昭和33年(1958)
タオルの研究・改良に尽力し、愛媛県今治市をタオル生産量全国一に導いた。